



令和 7 年 12 月 4 日

三豊市議会議長 丸戸 研二 様

議会広報委員長 三谷 正史

委 員 会 調 査 報 告 書

本委員会に付託された事件について、調査の結果を下記のとおり、
三豊市議会会議規則第 110 条の規定に基づき報告します。

記

1 調査事件

	視察先	調査事項
1	静岡県長泉町議会	議会だよりについて
2	東京都狛江市議会	議会だよりについて

2 研修者

委員長 三谷 正史
副委員長 近藤 武
委 員 瀧本 哲史 岩田 秀樹 水本 真奈美
石井 勢三 湯口 新
事務局（随行） 小山 尚子

3 調査の経過及びその概要（別紙 1 のとおり）

4 委員所感（別紙 2 のとおり）

1、 長泉町議会

(1) 日時 令和 7 年 7 月 30 日（水）午後 2 時 30 分から午後 4 時まで

(2) 調査案件 議会広報について

(3) 対応者

議長	下山 和則 氏
議会広報広聴常任委員会委員長	堀内 浩 氏
副委員長	安田三津子 氏
委員	福田 明 氏
議会事務局 事務局長	芹澤 文寿 氏
事務局	長倉 周平 氏

(4) 調査の経過

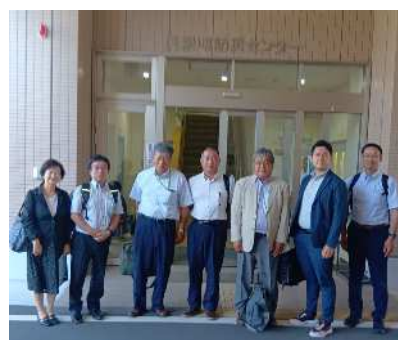
長泉町防災センターにおいて、下山長泉町議会議長のあいさつ、本市議会の三谷議会広報委員長のあいさつ、両市議会の委員の自己紹介の後、堀内長泉町議会広報広聴常任委員長を中心に、議会だよりについて説明を受けた。その後、質疑応答を行い、最後に本市議会近藤議会広報副委員長のお礼のあいさつにより、閉会した。

(5) 調査結果

長泉町議会の議会広報広聴常任委員会は、8 人の委員により構成され、発刊ごとに、平均 4 回程度の編集会議を開催している。令和 6 年度に広報紙をリニューアルし、同年の町村議会広報全国コンクールで入賞している。

リニューアルに際しては、住民ニーズに答え、わかりやすくより多くの町民に読んでもらえる広報紙を目指し、委員が様々な研修を受け、時代に合わせた構成や理解しやすい紙面の作成方法など研鑽を重ねた。また、議会だよりを住民と一緒に作りたいとの思いから、広報紙の愛称を公募した。

リニューアルの紙面は幅広い世代に関心を持ってもらえるデザインに一新し、町民の声を写真付きで掲載することで親近感をもってもらうことに成功した。議会だよりの他も、SNS、YouTube で情報発信をしている。



▲長泉町議会での研修の様子

2 狛江市議会

(1) 日時 令和 7 年 7 月 31 日（木）午前 10 時から 11 時 30 分まで

(2) 調査案件 議会広報について

(3) 対応者

議長	三角 武久 氏
狛江市議会だより編集委員会	
委員長	篠 浩司 氏
副委員長	北見 昌士 氏
議会事務局次長	垣内 素峰 氏

(4) 調査の経過

狛江市役所 3 階第 1 委員会室において、狛江市議会三角議長のあいさつ、本市議会の三谷議会広報委員長のあいさつの後、狛江市議会だより編集委員会篠委員長を中心に、議会だよりについて説明を受けた。その後、質疑応答や意見交換を行い、最後に本市議会近藤議会広報副委員長のお礼のあいさつにより閉会した。

(5) 調査結果

狛江市議会の議会だより編集委員会は、各会派から 5 名、無所属 1 名の合計 6 名で構成されており、発刊ごとに 2 回の委員会を開催、別途 L I N E ワ

ークスにて進捗を確認している。

令和3年度に大幅な広報紙リニューアルを実施した際は、議会に関心が薄いと思われる20～40代のファミリー・子育て世代、市外に出ている働き世代をターゲットとし、手にとってもらい、見てもらう、そして読んでもらう議会だよりを目指した。議会だよりの愛称GGはギカイガイドの略であり、議会を知るきっかけとなるエントリーペーパーとして位置付けている。

特集記事については、委員会から意見を持ち寄り、1年間で1つのテーマを決めている。例えば、令和4年のテーマは「子どもについて考えよう」であり、各号で「備える（中学生の避難所設置体験）」・「考える（PTAについて）」・「見守る（登下校の見守り）」・「遊ぶ（公園で街頭インタビュー）」などの切り口で特集を組んでいる。



▲狛江市議会での研修の様子

3 視察を終えて

静岡県長泉町議会だよりの議案紹介記事では、具体的な数値を大きく掲載し、読み手の目を引くように工夫している。そこには、住民の興味関心を引き、内容を読んでもらう狙いがある。

表紙については家族の写真を掲載し、こういった場面を撮影したものか分かるように、写真を複数枚掲載している。表紙写真の家族への取材は難しく、年頃の子どもがいる家庭では、写真の掲載許可が下りないこともあるとの苦労話も聞かせていただいた。

また、議会だよりリニューアルについては、過去にとらわれないことが重要と

話てくれた。

東京都狛江市議会では、リニューアルの際にコンセプト・ターゲット・デザインをまず考え、市民モニターの市民と議会運営委員会で視察へ行くなど、市民と共に現在の議会だよりを作り上げていった。

また、特集記事の写真を掲載する際は承諾書を取る、掲載を希望しない市民については、服装等の特徴を控えておき、風景写真等に写っていないか等注意している。

その他、編集方針をまとめた資料を作成し引継ぎに対応している等の工夫をされていた。



▲長泉町議会だより（左）と狛江市議会だより（右）

議会広報委員会 視察研修所感

		委員名	三谷正史
1	研修日程		
	令和7年7月30日（水）		
	研修先		
	静岡県長泉町議会		
	研修目的		
	議会広報について		
	研修所管		
	<p>令和6年に議会広報紙のリニューアルを行った経緯等について、説明を受け、その後、質疑を行いました。長泉町議会では、議会広報委員会が常任委員会となっており、広報紙の紙面作りの上での、様々な変更等議会の同意づくりが、比較的スムーズであるとの説明を受けました。</p> <p>広報紙の特徴としては、議案の内容につき、具体的な数字を大きく表示し、読者の興味を引き付ける。また、一般質問では、質問内容をカテゴリーに分けて、一覧に表示する等の工夫を行っている等の説明を受けました。「伝えるのではなく、伝わる広報紙を目指している」とのことでした。長泉町のシンボルカラーを基調として「みらいずみ」とした議会広報紙です。読みやすく、特に表紙、特集ページは、数字が大きく、市民の興味をひくような内容で毎回、よく工夫されていると思いました。</p>		
2	研修日程		
	令和7年7月31日（木）		
	研修先		
	東京都狛江市		
	研修目的		
	議会広報について		
	研修所管		
	<p>令和3年度の広報紙をリニューアル、特集ページでは大きなテーマを決めて読み手の興味を引くような紙面づくりをしている点などについて、説明を受けた後、質疑を行いました。</p> <p>狛江市議会、議会だより編集委員会が、令和4年に作成した「議会だより編集方針」に基づいた議会だよりのリニューアル、新たに作られた編集方針の説明を受けました。「とってもらう、みてもらう、よんでもらう」という基本方針コンセプトを中心に説明を受けました。</p>		

- 1, 表紙の重要さ。手にとってもらおう上で興味をもってもらおうための重要な要素であり、デザイン、思わず手にとりたくなるような内容が必要。
- 2, なるべく文字数を抑え、レイアウトを工夫、イラスト、図表等視覚に訴える紙面づくりが必要。
- 3, 難しい行政用語、専門用語は多用せず、言い回しはなるべく平易にする。読みやすさと内容のバランスの取れた紙面づくり。

議会だよりは、どうしても報告書のように市民が読みたくないようなものになりがちである。最近では、他の自治体も、様々な工夫を凝らし、手に取ってもらえる紙面づくりを目指している。三豊市も狛江市のように、一度、「編集方針」を作成、根本的な紙面づくりを議論すべき時かもしれません。

議会広報委員会 視察研修所感

委員名	近藤 武
<p>研修地：静岡県長泉町</p> <p>目的：広報・広聴活動の取り組みについての実地学習</p> <p>① 議会広報の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報委員は総務民生委員会・建設文教委員会から各４名ずつ選出され、広報と広聴の両面を担う体制。 ・ 広報紙の表紙は「手に取ってもらうこと」を重視し、子どもの写真を主役に採用。 ・ 一般質問には１ページを割り当て、議会活動の理解促進に努めている。 ・ 編集事務の流れは三豊市と類似するが、第４回での色校正により、紙面の視認性が向上。 ・ 編集作業の分担方式は三豊市と同様。 <p>② 議会だよりのリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約４年前よりリニューアルに着手。「わかりやすく・親しみやすく・読まれる」広報紙づくりを目標に設定。 ・ 毎月 SNS を通じてアンケートを実施。回答数は 60 件前後から開始し、現在は 3 桁への到達を目指している。 ・ 愛称募集には全国から 379 件の応募があり、選考の結果『みらいずみ』に決定。町民の参画と共感を得る成功例となった。 ・ 紙面は刷新され、町民インタビューの導入により、親近感と意見発信の場として機能強化。 <p>③ SNS の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Instagram、Facebook、YouTube 等を活用し、議会活動の魅力をコンパクトかつ分かりやすく発信。 ・ 「議会を身近に感じてほしい」という理念に基づき、SNS 投稿を企画・運営。 <p>④ 質疑応答から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民インタビュー記事は「きっと ずっと もっと」等の特集を通じて掲載されるが、取材や撮影に苦労も伴う。 ・ 記事への関心を高める工夫として「数字」や「印象的な見出し」が重要視されている。 ・ 記事内容や文字構成は委員会内で討議・決定。必要に応じて文字数の調整も委員会権限にて可能。 ・ 常任委員会による広報対応は、特別委員会制の三豊市との大きな違い。 	

・ 高校生の呼びかけにより、議会と首長による意見交換の機会も生まれており、若年層との接点強化が進む。

(まとめ) 三豊市議会だよりの改善に向け

① 市民参加型の広報リニューアル

・ 愛称公募の実施：広報紙の名称変更を通じて、市民の関心と愛着を喚起するため市民投票や子どもアイデアの採用も検討。

・ 紙面刷新と市民インタビューの導入：地域声を直接届ける「市民の目線」を反映した特集。年齢・地域・関心ごとにインタビュー対象を広げる。

② SNS 戦略の強化

・ Instagram や YouTube での定期発信：議会活動を視覚・動画で魅力的に発信。議員紹介リールや「一問一答」動画などを検討。

・ 議会ハイライトをショート動画化：難しい内容も短く・やさしく伝える工夫。市民向け Q&A 形式も有効である。

② 若者参画の促進

・ 高校生との意見交換会の定期化：テーマ別ワークショップ形式で若者の意見を吸い上げ、首長・議員と双方向の対話など。

・ 学生記者制度の導入：議会広報紙の一部を高校生が執筆。市民目線＋若者視点の融合を目指すのも一つのアプローチ。

③ 見せ方・伝え方の工夫

・ 数値や図解で“引きの強い”紙面作り：視覚的インパクトを強化。重要テーマはインフォグラフィック化などとにかく目を引く紙面作りが必要。

・ 紙面の色校正導入：見やすさ・読みやすさを向上させ、デザイン性と実用性の両立。

等本市において、議会だよりを見てもらう市民を増やす為様々な取り組み、リニューアルは必要と考えるに至った。

研修地：東京都狛江市

目的：本研修は、広報委員としてのスキル向上と、議会広報の質的強化を目的として実施。特に狛江市が 4 年前に実施した議会だよりのリニューアル事例を中心に学習した。

議会だよりリニューアルの概要（狛江市）

目的とコンセプト

- ・ 読者目線の「とってもら・見てもらう・読んでもらう」紙面づくり
- ・ 議会を市民にとって身近に感じられるよう、「議会だより＝議会とのファーストコンタクト」の意義を強調

デザイン・編集方針

- ・ 文字量を減らし、レイアウト・色使いで視認性を向上
- ・ 難解な言葉や専門用語を極力排除し、親しみやすい表現に変更
- ・ 特集ページは議員が持ち込み企画、1年を通してテーマを共有し調整
- ・ 表紙案はホワイトボードでラフに議論し、最終的にデザイナーと協力して完成
- ・ 議会だよりのタイトルを『GG』に設定（議会ガイドの略）

配布・市民参加

- ・ 委託費を支払い、全戸配布による広報効果を最大化
- ・ WEB アンケートを活用し、市民の意見を紙面改善へ反映

リニューアル後の反響

- ・ 一部に「文字が小さい」「特集の内容に疑問」などの声はあったが、全体として良好な評価

（質疑応答から）

項目	内容
表紙デザイン	印刷会社到大梓を委託
編集体制	委員5名（会派・無所属混成）で対応
特集企画・調査	必要に応じて委員全員で協力、特に市民アンケート時
裏表紙	「一問一答」形式が好評、親しみやすさを生む要素として定着

（まとめ）

三豊市議会だよりの活用ポイントとして、見やすさ・親しみやすさを重視した紙面づくりは、市民との距離を縮める有効手段であり、市民参加型広報（アンケート活用）は、紙面の質向上と市民理解促進に効果的である。また、編集方針は議員自らがテーマを持ち寄り、一定期間で整理する運用が望ましいとも考え、デザインや議会だよりの愛称などは、市民意見と専門家の力を融合させることで、完成度を高めることが可能であることなどを学んだ。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。

議会広報委員会 視察研修所感

	委員名	瀧本哲史
<p>研修日程</p> <p>令和7年7月30日 14:30～16:00</p> <p>研修先</p> <p>静岡県長泉町</p> <p>研修目的</p> <p>議会広報について</p> <p>所感</p> <p>概要・目的</p> <ul style="list-style-type: none">・住民が「手に取り、開いて、読んでもらう」きっかけを強化するデザイン・編集方針を導入・記事は議事録と当局答弁書に厳密準拠（解釈・加筆なし）、難解語・外来語は欄外説明で補助・文字数を抑え、空白・写真・イラストを効果的に活用し視認性・読みやすさを最優先・住民の反応増加を目標（フィードバック三桁）とし、公共施設・店舗での接触機会を重視 <p>効果・結論</p> <ul style="list-style-type: none">・リニューアルで視認性・親近性が向上し、読者参加（クイズ応募）が顕著に増加・SDGs アイコンや「視点」欄で政策テーマの理解促進と当事者性を強化・町民インタビュー・議員のお作法により議会と住民の距離が縮小・SNS 運用で若年層接点を拡大したが、フォロワー・エンゲージメントは伸長余地大・当局との二段階校正で正確性と議会の独立性を両立 <p>課題認識</p> <ul style="list-style-type: none">・写真掲載許諾の獲得難航（家族・高校生で拒否が多い）		

- 飛び込み取材の成功率が低く、知人紹介やイベント活用が有効

- 委員会未公開の現状と公開拡大の技術・運用課題

- AI 画像の扱いに関する誤認防止と将来的な活用方針の整備

色使いの上手さやデザインのシンプルさが際立っていた。

昨今の議会だよりに共通している課題認識が、読みやすさや見やすさであり、その点の課題認識が三豊市と共通している点も参考になった。

研修日程

令和7年7月31日 9:30～11:00

研修先

狛江市

研修目的

議会広報について

所感

リニューアルのコンセプトと工夫

- 「手に取ってもらう」「見てもらう」「読んでもらう」「議会に興味を持ってもらう」を重視したエントリーペーパーとして位置付け。

- 表紙にインパクトを持たせ、写真・イラスト・余白を多用し、見やすく親しみやすい紙面を目指す。

- 行政用語や専門用語を避け、誰でも理解しやすい文章を心がける。

- タイトルは「GG（議会ガイド）」に決定し、ロゴは風通しの良い市民・市議会をイメージ。

- 表紙・裏表紙には「一問一答」コーナーを設置し、議員の人となりや親しみやすさを演出。

気付き

- 市民目線の記事作成を重視し、難しい用語は極力避け、必要な場合は解説を付記。

- 写真は個人特定に配慮し、承諾書取得やアングルに注意。

- 一般質問記事作成時、会議録と齟齬がないよう「言っていないことは載せない」方針を徹底。

狛江市も読みやすさや見やすさに重きをおいているが、よりイラストなどを多く使い全体の統一感が素晴らしい。情報量が多いのに、読みづらくさせない構成になっており、イラストなどの使い方が上手い為に収まりの良さを感じた。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。

議会広報委員会 視察研修所感

	委員名 岩田秀樹
<p>研修日程 2025（令和7）年7月30日（水）～7月31日（木）</p> <p>1. 研修先 7月30日（水）静岡県長泉町 研修目的 議会広報について</p> <p>2. 研修所感 特集の作成における、テーマの選定や取材方法はオーソドックスである。 読者参加一コーナーが、裏表紙にある。読者の反応を確認する「わが町・発見クイズ」などの取り組みを行い反応を得ている。昔から考えていたアンケートとよく似ている。 一般質問の問答は、200字程度に要約し、数問記入している。 個人写真、関連写真を1／4に使い、質問表題、答弁内容要約し大きな字体で記入し、質問、答弁が分かりやすい。 全体に写真を大きく、文字はカラーで表題は大きくしている。 全体の字数は少なくし、すぐにわかるような内容である。 記事の空間に、議員取材の家族写真やスポーツクラブの写真を掲載し、読んでもらいやすくしている。</p> <p>1. 研修先 7月31日（木）東京都狛江市 研修目的 議会広報について</p> <p>2. 研修所感 議長以外の21名全員が毎回一般質問しているとのこと。三豊市議会の広報とほとんどページは変わらないので、紙面編集は大変だと感じた。 WEB アンケートを開始した。毎回10件程度の意見が出されるとのこと。三豊市でも導入したらよいのではないかと。 令和元年10月より、市民で構成される「こまえ市議会だよりモニター」を設置、令和2年から全戸配布を開始した。その後、議会だより編集委員会としてスタートしギカイガイドを創刊、検討を重ねている。2022（令和4）年2月、マニュアル集「こまえ市議会だより（GG（ギカイガイド））編集方針」を作成している。 また、議員が全員参加できる場として「一問一答」のページを設けている。 市民が参加しやすく、編集作業は誰でも行えるように進めている。 これにネットが加わり、読者も参加しやすいのではないかと。</p>	

※所感の提出については、メールまたはUSB等によるデータで事務局に提出ください。

議会広報委員会 視察研修所感

委員名

水本真奈美

I、長泉町議会「議会広報について」

日時：令和7年7月30日(水)

場所：長泉町議会 防災センター

概要：人口 43,544 人 面積 26.63 km²

長泉町は、静岡県県の東部に位置し、県都静岡市から約 50 キロメートル、首都東京からは約 100 キロメートルで、恵まれた交通環境を背景に各種企業の立地が相次ぎ、現在では、がん治療の最先端技術を誇る県立がんセンターを中核とした先端健康産業の集積を目指す「ファルマバレープロジェクト」と連動し、医薬・健康関連企業の誘致を進めている。さらに、県内屈指の人口増加率や出生率を誇り、2009 年 5 月には人口 4 万人を超える県下最大の町である。

長泉町議会広報について

令和 6 年度にリニューアルし、町議会広報コンクールで 8 位入賞している。タイトルについて、親しみやすく、「みらいずみ」と未来と長泉を掛け合わせ、工夫がみられる。議案について数字を大きくしたり、見出しの文字の大きさや色も変えて読み手の興味を引き付けている。町民の写真を掲載し、しかも町民の意見や感想を入れ、住民参加のページ作りを行っている。紙面の空白も余裕をもってレイアウトしており、読みやすいと感じる。親近感があり、おしゃれな女性雑誌のような感覚を覚える紙面デザインである。一般質問は 1 ページを使い写真も大きい見出しの文字も大きく色使いも優しい色使いである。「〇〇議員の視点」として、議員の主張を明示し、「教育」とか「防災」、「まちづくり」、「くらし」、などカテゴリーに分け、見やすい構成となっている。

表紙は町民の写真を掲載し、議員が取材し、インタビューを掲載、取材班の意見も掲載している。また、「わが町たんけんクイズ」の取り組みと共に議会だよりの感想や町への意見等も掲載し、住民参加型、興味を持って読んでもらえる取り組みを行っている。とても参考となる研修であった。

II、狛江市議会「議会広報について」

日時：令和7年7月31日(木)

場所：狛江市議会

概要：人口 82,201 人 面積 6.39 km²

狛江市は、東京都下の多摩丘陵の東南端多摩川沿岸に位置する。新都心新宿から電車で南西へ約 20 分の位置にあり、東は世田谷区、西及び北は調布市、南は多摩川をはさんで神奈川県川崎市に接している。狛江市は、今もこの丘陵台地のいたるところから縄文式の土器や石器類が発掘され、特に古墳時代に栄えていたことを物語る古墳が市内の邸内や畑の中に多く残っている。緑も多く武蔵野の野趣も富んだ狛江に住宅地を求める人々がふえ、東京のベッドタウンとなっている。

令和 3 年度に広報誌をリニューアルし、20～40 代の青年、子育て世帯など若い年齢層の市民をターゲットに手に取って読んでもらえるように、表紙は「GG」とし、ギカイ・ガイドの略で、「とってもら、みてもら、よんでもらう」という編集方針のもと、おしゃれなデザインとなっている。特集ページは年間のテーマを決め、(例えば、令和 4 年は子供について・令和 5 年は健康、令和 6 年は防災について) そのテーマに沿った内容を各号、関連付けた内容構成としている。例えば、防災特集というテーマでは、情報収集・発信、備蓄・非常食づくり、ペットの同行避難、消防団という特集内容を各号で組んでいる。テーマに沿って市民に街中インタビューを議員が取材に出かけて、市民目線の記事を掲載できるよう工夫している。親しみを持ってもらう、参加意識を持ってもらう、かかわってもらうことをコンセプトに記事に取り組んでいる。一問一答の取り組みは、議員の人となりが見られ、市民に好評である。また QR コードによるアンケートで意見や質問を市民からいただき、議会だよりに対しての感想も寄せていただき、高評価を得ている。住民と共につくる、また興味をもって、気軽に読んでもらえるように努力と工夫が紙面から現れている。とても参考になる視察研修でした。

議会広報委員会 視察研修所感

	委員名	石井勢三
研修日程 令和7年7月30日(水)～31日(木)		
1. 研修先 静岡県長泉町 長泉町議会 7月30日(水) 14:30～16:00		
研修目的 議会広報について先進事例視察のため		
研修所感 長泉町は、令和6年度広報紙をリニューアル、同年、町村議会広報コンクールでは8位に入賞している。リニューアルまでの経緯 <ul style="list-style-type: none"> ● 住民ニーズに答え、わかりやすくより多くの町民に読んでもらえる広報紙を目指したい。 ● さまざまな研修を受け、時代に合わせた構成や理解しやすい紙面の作成方法など研鑽 ● 紙面の全面リニューアル・愛称の公募を実施。全国から379通もの応募があり「みらいずみ」決定 リニューアル時の概要 <ul style="list-style-type: none"> ● 業者選定：一者特命随意契約 ● 契約金額：684,200円 ● 主な仕様：コンサルティング業務（訪問3回・オンライン4回） リニューアル作成業務（表紙、裏表紙、中面それぞれのデザイン案を作成してもらい、調整及び修正） 幅広い世代に関心を持ってもらえるデザイン・色使いに変更。写真を多く使うこと、余白をしっかりと取ることを心がけ、読みやすさを重視していく。伝えたいことがありすぎて、ついつい文字が多くなりがちだが、優先順位を決め、タイムリーで正確な情報を伝えられる構成にしていく。 また、「親近感を持ってほしい」とのことで町民インタビューを実施。町民の声を写真付きで掲載することで、親近感を持ってもらうことができ、更には、新たな読者の獲得にもつながると考えた。また、議員が町民に直接取材に行き、町民のリアルな声をキャッチすることで、今後の町政にも生かすことができる。一方的なお知らせから双方のコミュニケーションを目指している。結果、町民の声として、 <ul style="list-style-type: none"> ● リニューアルされた議会だより、“みらいずみ”は素敵だ。議員のお作法・・・身近に感じる。全他の記事も読みやすく理解できる。 ● デザインが見やすく、また町民への聞き取りもされており、好印象。寄り添う姿勢に今後も期待する。 研修を受け、評価を受けている議会だよりは、何処もしっかりとした余白をとり、写真やイラストをしっかりと使用し、デザインも目を引くものとなっている。“みら		

いずみ”で、特に印象深かったのは、表紙を開けると、大きな数字が表れる。質問すると、大きな数字を使うことで、読者の気を引く効果があると答弁された。様々な工夫を凝らしていると感じられた。わが三豊市議会だよりも、様々な工夫をこらしてきたが、一度、大きくリニューアルをする必要を感じた。一変することで、議会だよりのイメージを変えるべきだと感じた。非常に参考となる研修となった。

2. 研修先

東京都狛江市 狛江市議会 7月31日(木) 10:00～11:30

研修目的

議会広報について先進事例視察のため

研修所感

狛江市議会だよりは、令和10年より市民で構成される「こまえ市議会だよりモニター」を設置し、連絡会議での意見を紙面に反映させるとともに令和2年からは全戸配布を開始した。議会サイドとしても議会運営委員会の中に新たな議会だよりを検討する小委員会を設置し、その後、議会だより編集委員会として発展させて令和3年2月に第1回の編集会議を開催、GG（ギカイガイド）の創刊に向けて検討重ねてきている。

GGは普段会議に関心が薄い20～30代のファミリー・子育て世代、市外に出ている働き世代をターゲットとして、紙面の中で全てを伝えるのではなく、議会を知るきっかけのひとつとして位置付けた。詳細な情報については市や市議会HP等へ誘導させて行く様に工夫することで、議会に関心がなかった層に興味をもってもらい、議会に親しみをもってもらおうエントリーペーパーとして、編集委員会が中心となって、手に取ってもらい、見てもらう、そして読んでもらう議会だよりを目指している。

GGの紙面構成における掲載内容と考え方

- GGへの掲載については、実際に本会議や各常任委員会において実際に行われた質問・答弁・討論・意見等の要約とするが、その趣旨を逸脱したり、誤解を招く表現は避ける。
- GGにおいて写真や素材等を使用する際には肖像権や著作権には配慮し、掲載が可能なもののみとする。
- 基本的に各議員が作成した原稿をそのまま掲載する。ただし、提出された原稿について事実誤認や誤解を与えるような表現がある場合は、作成した議員本人に確認に確認の上で調整することができる。
- 原稿の作成にあたっては、中学生でも理解できるような解りやすい表現に努める事とする。
- 原稿を作成する場合、文中の句読点については1文字に含まれる。ただし、句読点が巻頭にくる場合は前の行に置く
- フォントや色遣いなどユニバーサルデザインの視点にたって紙面作成を行うこととする。

また、表紙の写真については特集と連動し、市民にとって興味を持つような表紙であ

ることをこころがける。特集については、表紙に興味を持って手に取った市民が議会を身近に感じることができるような記事や市民生活にとって必要な記事を読みやすく興味を持って読んでもらうような内容であることをこころがける。

研修を受け、改めて狛江市の GG（ギカイガイド）を見ると、表紙は、うまくイラストを使用し本来の議会だよりのイメージからは、かけ離れているように感じられる。やはり空白、文字を大きくし、まさに手に取って読んでみようかと思わせる雑誌のように出来上がっている。特に印象に残ったのが、「こまえ市議会だよりモニター」を設置し、内容について市民目線をすごく重視している点である。議会の中だけでは、気づかないような問題点を改めて発見できるなど、いい仕組み作りだなあと感じた。狛江市でも、前日の長泉町でも、議会だよりの一新により大きくイメージが変わり、市民に手に取ってもらえる情報紙へと変化している。わが三豊市議会だよりも、本当に大きく一変するべきと感じられた。

議会広報委員会 視察研修所感

	委員名	湯口 新
1 研修日程	令和7年7月30日（水）～31日（木）	
2 研修先	長泉町・狛江市	
3 研修目的	議会広報について	
4 研修所感	<p>【長泉町・議会広報について】</p> <p>令和6年度に広報をリニューアルしておりその時のコンクールにおいて8位入賞を果たしている。議案の内容の記事でも具体的な数値を大きく表示することによって興味関心をひきつけている。表紙の写真はリニューアル時のコンセプトとして自宅やお店にあっても手に取っていただけるものにしようということで子供の写真をピックアップしている。愛称の公募をした結果、中学生からの「みらいずみ」が採用された。市民の声を把握するために、クイズで答えてもらう中に感想や疑問を書いてもらうようにしており、今では回答が160を超えている。</p> <p>リニューアル時には、予算審議の記事に「きっと・ずっと・もっと」をキーワードに市民に取材をすることにしたが、写真を載せることを許可をもらってからの取材が難しいとのこと。数字を強調した構成の意味、理由は、文字が並んでいるだけだったので、印象付けるきっかけになるようにした。開いてもらった時に読んでもらえるきっかけになるように。内容を見ないとその数字の意味がわからないようになっている。</p> <p>多くの説明を受けたが、特にクイズの回答が160を超え、そこに市民の声も添えられているという事で、これは三豊市議会でも取り入れるべきだと思った。また紙面を読んでもらう工夫も説明だけ聞くとうまくできるのか不安になるが、実際の紙面は確かに議案説明でも「読んでみよう」と思える効果があり、三豊市でも検討すべきである。</p> <p>開かれた議会となるよう広報にもしっかりと力をいれており、まだまだ三豊市でもできることはあると感じられた研修となった。</p> <p>以下、その他で印象に残った説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色構成で気をつけているところは→空白を多く、文字数を少なく。一般質問も委員会権限で構成。 ・委員外が文字が多いのを持ってくると委員会の権限で削減してしまう。 ・委員会にはベテランも入ってもらう。常任委員会にしているので権限もある。 	

- ・ 文字のバランスの判断は→委員会で
- ・ 議員の作法を始めたのは→前の事務局員の発案。他の自治体を参考に。
- ・ SNS の担当は→写真は事務局。文章は事務局と委員長で。発信は事務局。
- ・ クイズの予算計上は→一回 1 万円、計 4 万円。以前は五百円であった。

【狛江市・議会広報について】

議会広報は 4 年前に全面改正しており、特集を組むなどしてターゲットを絞り込んでいる。市民が他人事から自分ごとになるよう文字だらけの誌面をリニューアルするため、デザイナーを交えて検討。コンセプトを「取ってもらう見てもらう読んでもらう」にして気軽に読んでもらえるように考えていた。

手にとって読んでもらうだけでなく、議会を知る第一歩になるよう、多様な方に広がるように特集を工夫している。特集は議員が対応している。「特集」は委員会によって持ち上げで決定しており、1 年間隠しテーマ（大きなテーマ）を持って特集を決めている。市民の声の把握のためアンケートに答えてもらえるようにしたいが現状はアンケートは 10 件弱であるとのこと。

議会広報ではどの先進地を伺っても、まずは過去の議会広報からの脱却と市民とにかく手にとってもらうための工夫を取り入れており、狛江市でもデザイナーを交えて検討するなど市民から「どう見えるか」そして「どう読んでもらうか」に主眼を置いていた。どうしても議会として読んでもらいたい内容と市民が読みたい、読みやすい内容はズレが出るためそのズレをより小さくする工夫と、その前に「特集」で市民が読んでみたくなる内容を取り上げるなどの工夫は効果が出そうである。

議会広報は議会を知る第一歩、という言葉は非常に大切で、そのためにも市民側の目線にたって改善していく必要性を感じる視察研修となった。

※所感の提出については、メールまたは USB 等によるデータで事務局に提出ください。